

## M2 ミニシンポジウム2 2日目(9月16日)

「Next Generation Sequencerのインパクト：4Pの時代」

### 開催趣旨

最近の次世代高速シーケンサ(NGS)の発展は目覚しく、いよいよ「個人の全ゲノム情報に基づいた」個別化医療の時代、すなわちパーソナルゲノム時代が到来しつつある。またNGSは、発現RNAの直接配列解析など「デジタルOmics」情報ももたらし、4P( personalized, predictive, preventive, participatory ) 医療の実現を加速化している。

疾患は生命の分子パスウェイ/ネットワークが「歪んだ」状態であり、とくにその自己形成過程において、生命の発生・組織形成の遺伝子ネットワークをtake-overしている場合が多い。このようにNGSがもたらす疾患ゲノム/オミックス情報を進化的/発生的に理解することによって「新たな医療」の可能性を提示する。

座長：田中 博(東京医科歯科大学)

### プログラム

M2-1 : 9:15-9:55

「ゲノムワイド関連解析(GWAS)の現状と展望」

徳永勝士(東京大学大学院 医学系研究科人類遺伝学)

M2-2 : 9:55-10:35

「ヒトの健康と病気に関わる腸内細菌叢のゲノム科学」

服部正平(東京大学大学院 新領域創成科学研究科)

M2-3 : 10:35-11:15

「DNAシーケンス革命の展望」

林崎良英(理化学研究所 オミックス基盤研究領域)

M2-4 : 11:15-11:45

パネルディスカッション